

「卸売サービス価格指数」の作成方法について

日本銀行調査統計局 井上萌希、高川泉、長田充弘

卸売サービスは、日本銀行調査統計局が毎月作成・公表している「企業向けサービス価格指数（SPPI）」がカバーしていないサービス分野の中で、取引規模が最も大きい分野である。このため、日本銀行では、卸売サービス価格の調査手法を検討することを目的として、2014年に試験調査を開始し、実務ノウハウの蓄積に努めてきた。こうしたなか、近年、「国民経済計算（いわゆるGDP統計）」の推計精度向上のためにサービス部門の統計整備ニーズが一段と高まってきたこともあり、日本銀行では、今般、「卸売サービス価格指数」の本格的な開発に着手し、2019年央の公表を目指して準備を進めている。

本発表では、卸売サービスの概念、価格聴取方法、品質調整方法を整理するとともに、試験調査との比較を通し、卸売サービス価格調査の考え方について論じる。その上で、卸売価格調査における実務上の論点として、調査価格選定、品質固定方法、その他の効率的な価格調査に資する工夫を取り上げる。

現時点で調査協力が得られた企業から収集した価格を用いて、卸売サービス価格指数の試算値を作成した。その価格動向は、①個々の卸売サービス価格には、変動幅のかなり大きいものが相応に含まれているが、集計値の振れは抑制されている、②調査対象の卸売サービスに対応する商品の価格（主に企業物価指数）の集計値と卸売サービス価格指数の試算値とは異なる動きを示している、③取扱商品価格と卸売サービスの動きの違いは、この間に経済に加わったショックの性質に由来している可能性がある、と整理される。

このように、日本銀行では、「企業向けサービス価格指数」のカバレッジ拡大を図るとともに、様々なユーザーニーズに対応できるよう、「卸売サービス価格指数」の開発を進めている。本発表に対して寄せられた幅広いご意見も参考にしながら、作成方法を確定させる予定である。

参考文献

日本銀行調査統計局（2018）『「卸売サービス価格指数」の作成方法について』、日本銀行調査論文

日本銀行調査統計局（2018）「企業向けサービス価格指数・2015年基準改定の基本方針」、日本銀行調査論文